

平成30年度主要事業説明資料

- ◇ 『みんなで未来の種を育てる年』 (P1)
- ◇ 主要プロジェクト
 - 1 幼小中一貫教育の推進 (P2)
 - 2 ICTを活かした教育の推進 ～袋井市教育情報化推進計画の実現～ (P3)
 - 3 子ども・子育て支援事業 ～みんなで応援！安心子育てすこやか子育て～ (P4)
 - 4 ラグビーワールドカップ2019を活かしたレガシー創出事業 (P5)
 - 5 袋井市総合体育館整備及び運営事業 (P6)
 - 6 健康経営の支援 (P7)
 - 7 コミュニティセンターを拠点とした地域づくり (P8)
 - 8 (仮称)袋井西コミュニティセンターの整備 (P9)
 - 9 まちの国際化「ふくろいまるごとインターナショナル」の推進 (P10)
 - 10 袋井駅南まちづくり事業 (P11)
 - 11 空き家対策事業 (P12)
 - 12 ICTを活かした街づくりの推進～より豊かに、より快適なまちの実現へ～ (P13)
 - 13 農産物の販路拡大に向けた農業者主体の取組支援 (P14)
 - 14 袋井消防庁舎・防災センター整備事業 (P15)
 - 15 次の時代を見据えた政策研究 (P16)



平成30年度施政方針 『みんなで未来の種を育てる年』

【市政運営の基本方針】

これまでにまいた「種」の一つひとつが、未来に向けて、たくましく成長するよう、市民の皆様をはじめ、企業や大学などと一緒に大事に育てていきます。人づくり・地域づくり・都市づくりの各種施策を果敢に実行し、着実に成果を積み上げていきます。

【分野別重点取組】

【教育・子育て】自立力・社会力を育む 人づくり

- 幼小中一貫教育の推進
順次「幼小中一貫教育プログラム」「就学前教育・幼少接続プログラム」実施
- 小中学生の基礎学力の向上
「袋井版学力調査」を実施、結果に基づき授業改善を行う
- 袋井型英語教育の推進
学習指導要領改正に先駆け、全小学校で実施
市独自に、小学1・2年生もデジタル教材を活用した英語活動
- ICTを活用した教育の推進
袋井中・袋井南中へ電子黒板配備
- 保育施設の整備
・袋井駅南地区への民間認可保育所の開設／2019年4月開設
・（仮称）袋井南認定こども園の整備
・企業主導型による保育施設の設置促進
- 放課後児童クラブの整備
袋井東・袋井西小学校区建築工事
- 学校施設の環境充実
トイレの洋式化推進、無線LAN整備、長寿命化対策工事
- 浅羽中学校施設整備

【スポーツ・健康福祉】健康でいきいきと暮らせる 人づくり

- 袋井スポーツドリーム推進事業
ラグビーワールドカップ2019・インターハイ・東京リパラ
- 総合体育館整備及び運営事業
体育館建築工事・周辺道路整備／ネーミングライツ募集
- コミュニティセンターを拠点とした健康づくりの推進
各センターで出張保健センター開催
地域の活動グループへの支援
- 地域包括ケアシステムの充実
コミュニティセンターを拠点とする推進体制
- 企業の健康経営の支援
協会けんぽや商工団体と連携した支援
- 健康ポイント事業
「#2961ワーク」サービス開始
- 不育症治療費助成制度の創設

【市民力・地域力】確かな絆で支え合う 地域づくり

- コミュニティセンターを拠点とした地域づくり
各センターへの職員配置
「特色ある地域づくり事業交付金」への統合
全国の優良事例等の共有化と事業化支援
- ボランティアが活躍できる環境づくりの研究
- （仮称）袋井西コミュニティセンターの整備
- まちの国際化の推進
多文化共生推進計画の策定／英語や異文化を親しむ機会の創出
ふくろい版ホームステイの準備
- 浅羽佐喜太郎公碑建立100年記念事業
記念事業の開催支援
- 健康都市連合国際大会への参加
日本一健康文化都市の取り組みを世界へ発信（10月7-9日開催）
- 放課後子ども教室の充実
実施小学校区の拡大に向けた担い手確保
- コミュニティスクールの充実
学校・家庭・地域一体で幼小中一貫教育に適した学校運営協議会の構築

【都市基盤】快適で住みよい 都市づくり

- 袋井駅南まちづくり事業
区画整理・商業地区・メディカル地区の事業推進
- 空き家対策事業
空き家対策計画策定／空き家バンクの利活用
- 最適な公共交通ネットワークの再構築
自主運行バスやデマンドタクシーの対象地区を再検討
- 歩いて楽しいまちづくり事業
袋井駅南地区における公園・自歩道整備／水辺空間の創出
- 基幹道路の整備
山梨中央通り線・諸井山の手線
- まちの多言語案内表示看板整備事業（英語併記の公共サイン設置）
- Wi-Fi環境の充実（市施設と民間施設の充実）
- 一般家庭への新エネルギー機器の導入促進
補助制度を拡充し、家庭用蓄電池などを新たに対象
- 水道施設・下水道施設のマネジメント
施設整備及び個別施設計画策定

【産業振興】にぎわいと活気あられる 都市づくり

- 次世代産業の転換に向けた社会実験の検討
エコパ周辺で自動運転などの実証実施に向け関係機関と協議
- 企業誘致
豊沢工業団地整備事業・小笠山山麓開発事業
- JR袋井駅北側の活性化に向けた研究
- 3デイズワーカーズオフィス構想の事業推進
- 市内企業への人材確保
磐田市等と連携した就職フェアと合同企業説明会実施
- 農産物の販路拡大に向けた農業者主体の取組支援
商談会への参加や袋井茶の東京日本橋への出店などを支援
- 中小企業や農業者へのIoT・AI利活用の推進
研修会の開催・水田への情報端末活用研究
- インバウンド観光の推進
ベトナムをターゲットに市内周遊観光

【防災】安全・安心の 都市づくり

- 袋井消防庁舎・袋井市防災センターの整備
建築工事
- 袋井幸浦の丘プロジェクトの推進
防潮堤の整備・ワークショップの開催
- 原子力災害時広域避難計画の策定
- 一般家庭への防災・減災対策
木造住宅耐震補強・家具転倒防止・感震ブレーカー設置
- 地域防災力の充実
自主防災隊の防災資機材購入補助
地域の防災訓練への参加促進
- 治水対策事業
松橋川・油山川の河川改修／洪水ハザードマップの見直し

【重要施策】

- ① コミュニティセンターを拠点とする地域づくり
- ② ラグビーワールドカップ2019に向けての万全な準備
- ③ 企業や大学との連携によるまちづくり
- ④ 教育・子育ての充実

幼小中一貫教育の推進

平成 30 年度予算額 43 万円

現状と課題

袋井の学校教育の現状

- **学力が全体的に低い。** (H29 年度全国学力・学習状況調査)
 全国の平均正答率との差 小6 ▲3.0%
 中3 ▲2.2%
- **不登校や問題行動が多い。**
 不登校の発生率 (H28 年度)
 袋井市 小 0.49% 中 4.77%
 静岡県 小 0.58% 中 3.26%
- **自己有用感が低い。** (H29 年度全国学力・学習状況調査)
 将来の夢や希望を持っている児童生徒
 袋井市 小 65.6% 中 37.1%
 全国 小 70.0% 中 45.3%

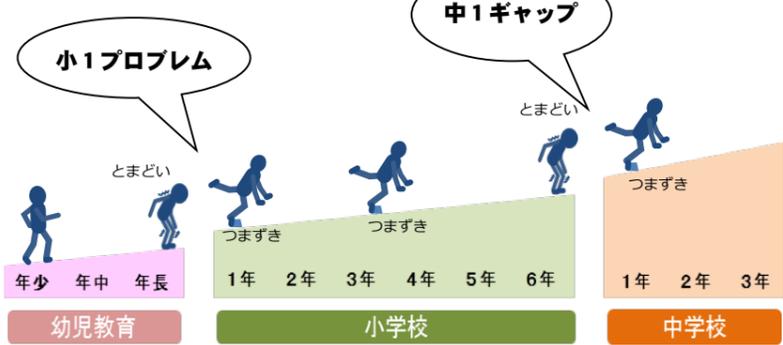
これからの子どもたちに求められる資質・能力

新学習指導要領 (平成 29 年文部科学省)

- 生きて働く「**知識・技能**」
- 未知の状況にも対応できる「**思考力、判断力、表現力等**」
- 学びを人生や社会に生かそうとする「**学びに向かう力、人間性等**」

小一プロブレムの原因

- ①生活習慣の変化
- ②対人スキルの未習得など



小・中間の主な差異

- ①授業形態の違い
- ②指導方法の違い
- ③評価方法の違い
- ④生徒指導の手法の違い
- ⑤部活動の有無

課題解決のための効果的な手段

～ オール袋井で育てる15歳の姿 ～

袋井市の教育が目指す子ども像

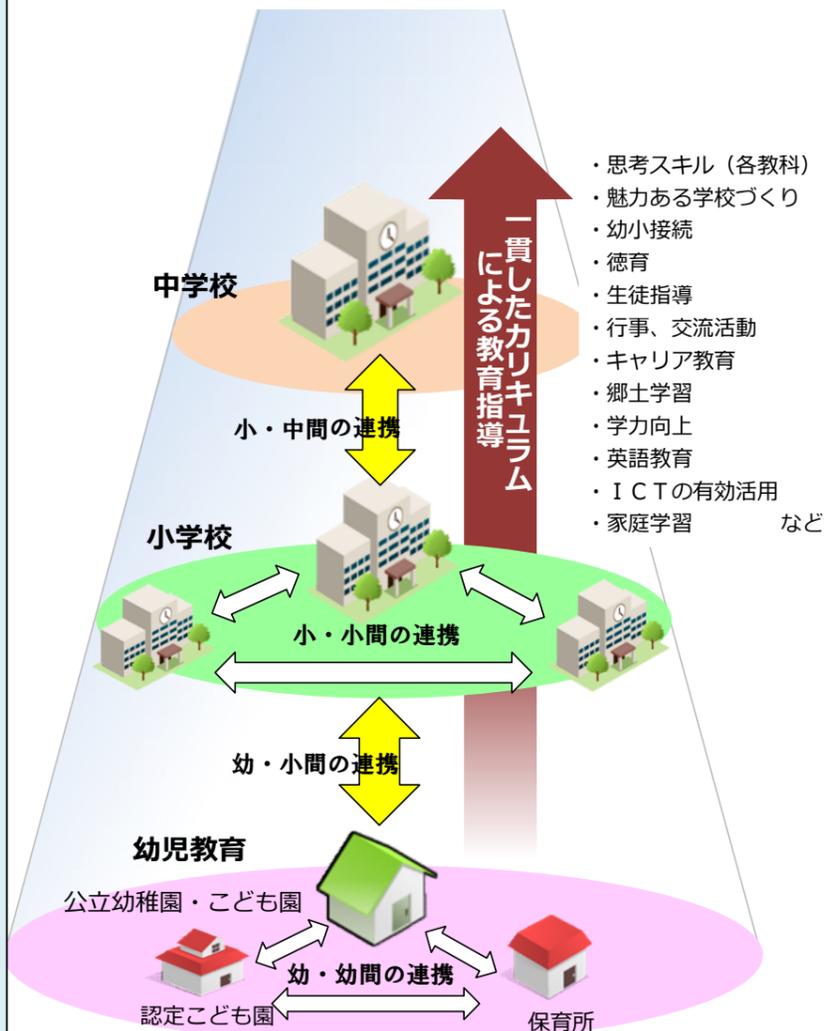
夢を抱き、たくましく次の一步を踏み出す15歳

自立した人間として主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造するための基礎的な力を備えている。

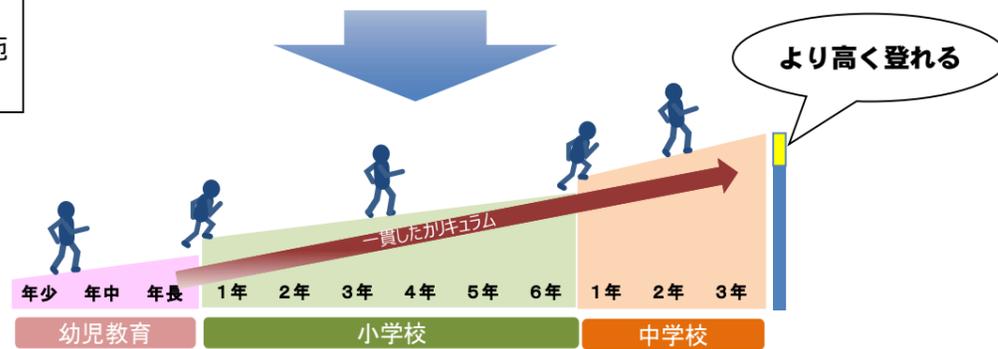
自立力	社会力
自分で考え、自信と責任を持ち、主体的に行動する力がある。	集団にあって他者の存在を認め、話し合い、学び合い、協働する力がある。
自己有用感・自己肯定感に基づく自信を持っている	
学びに向かう意欲と力がある 確かな知識や技能を身につけている 自ら課題を発見し解決する力がある 豊かな感性がある 粘り強く頑張り抜く力がある 失敗しても立ち直る力がある 健康な心と体を持っている 自分のキャリア形成に具体的な考えを持っている	高い言語能力がある 親和的なコミュニケーション力がある 豊かな表現力を備えている 高い規範意識を備えている 多様な考えを尊重する寛容さを備えている 他者と協働する力がある 他者に共感する感性を備えている 社会に貢献したい気持ちを持っている

袋井市の幼小中一貫教育の主な特長

全小中学校9年間において、思考ツールを活用した授業を実施することで「考える力（思考力、課題解決力）」の育成を図る。



幼児期からの一貫した教育



平成 30 年度の主な取り組み

- ・標準カリキュラムの検討 (継続)
- ・幼小中一貫教育カリキュラム (一部) の試行及び見直し
- ・就学前教育カリキュラムの実施
- ・幼小接続カリキュラムの試行及び見直し
- ・保護者等への情報発信

一貫教育スタートに向けたスケジュール

	H29年度												H30年度												H31年度					H32年度							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
小・中間の連携強化	標準カリキュラムの検討 (国語、算数・数学、理科、社会、体育、英語ほか)												継続して検討 (音楽、図工・美術、家庭、道徳ほか)																								
幼・小間の連携強化	標準カリキュラムの検討 (就学前教育、幼小接続)												幼小中一貫教育カリキュラム (一部) の試行												標準カリキュラムの見直し												
校区内の連携強化	幼小中教職員の合同研修、魅力ある一貫校・園づくり												教育目標、経営方針等の整理												校区カリキュラムの試行、校区カリキュラムの見直し					状況確認							
その他の取組	ICTを活かした先進教育の推進 (ICT機器整備、ICT機器の活用など)												小学校・中学校における英語教育の推進 (指導助手派遣、英語力調査、イングリッシュデイキャンプ、英検チャレンジなど)												いじめ・不登校のない学校づくり (教育心理Q-Uを活用した学校・学級経営、不登校児童生徒への個別支援)					コミュニティ・スクール (学校運営協議会) の取組充実							
幼小中一貫教育推進委員会													評価指標等の検討												状況確認					状況確認							
啓発・PR	幼小中つながる通信の発行																																				

全校区で一貫教育スタート

袋井市の幼小中一貫教育

ICTを活かした教育の推進～袋井市教育情報化推進計画の推進～

予算額
4,558万円

背景と現状

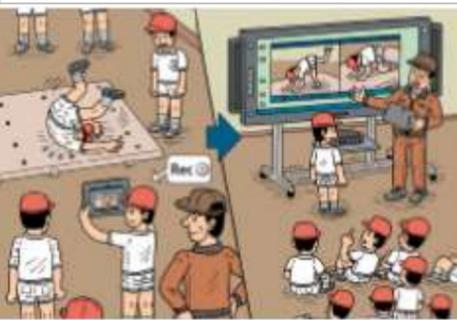
【国：第2期教育振興基本計画(H26～29)における目標水準】

- ・教育用PC1台当たりの児童生徒数 3.6人 <市・現5.9人>
- ・コンピュータ教室40台 <整備済み>
- ・各普通教室1台、特別教室6台 <整備済み>
- ・設置場所を限定しない可動式コンピュータ40台 <未整備>
- ・電子黒板・実物投影機の整備(1学級当たり1台) <小100%、中50%>
- ・超高速インターネット接続率及び無線LAN整備率 100% <インターネット100%・無線LAN未整備>
- ・校務用コンピュータ 教員1人1台 <整備済み>

平成32年度の新学習指導要領完全実施に向けて、国が示した目標水準を達成できるよう、学校のICT環境を整備していきます。



ICTを使って、視覚化、焦点化、共有化



○タブレットで動画撮影
一人ひとりに応じた指導が可能

どの子にとっても
授業がわかる！
勉強ができる！
学校が楽しい！



○どこでも使える
無線環境整備
○タブレットで
授業が変わる

出典：ICT教育環境整備ハンドブック

事業のねらい ～ICT機器を活用してわかる授業を行い、「確かな学力」を育成します～

【次世代を生きる子どもたちの学力向上】

- ・子供たちの学習への興味関心を高めることに有効
- ・子供たち一人一人の能力や特性に応じた学び(個別学習)の深化
- ・教員と子供たちが相互に情報伝達を図ったり、子供たち同士が教え合い学び合うなどの協働学習への発展
- ・次世代を生きるための最低限必要な情報活用能力を学校教育の段階で習得

【校務の情報化】

- ・よりきめ細かな指導が可能
- ・教員が子供たちと向き合う時間や教員同士が相互に授業展開等を吟味し合う時間が増加
- ・教育の質の向上と学校経営の改善(学校評価情報の処理と効果的な活用によるPDCAサイクル)
→ 保護者・地域への説明責任 → 地域とともにある学校に必要不可欠

平成30年度の取り組み

① 電子黒板機能付きプロジェクター・実物投影機(書画カメラ)を中学校2校(袋井中・袋井南中)の全学級に導入(小中学校全教室整備完了)(1,852万円)

② ICT支援員の配置(682万円)

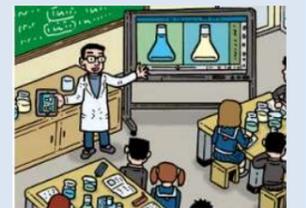
- ICTを活用して効果的で魅力的な教育実践を行うためのICT支援
→ ICTを活用し、どの児童・生徒にもわかる授業を作っていくために、
全国の先進的な事例の紹介や教材の作成を依頼

③ デジタル教科書の配備(324万円)

- 全小学校：理科(5・6年生)、社会(5・6年生)
- 中学校(周南中・浅羽中)：国語・数学・理科・社会・英語(全学年)

④ 無線LAN環境の整備(小学校2校：袋井東小、袋井西小)(1,700万円)

- ICT機器をどこでも使用可能にし、ICTを活用した教育の一層の推進
避難所運営時に、市民の利用(一般開放)を可能にするシステムの整備



⑤ 一人1台学習環境の調査研究

- セキュリティガイドラインに沿った環境の研究と整備計画の見直し

袋井市教育情報化推進計画(H27～H35)

《整備計画》

- ◆全小中学校への電子黒板機能付きプロジェクター、実物投影機の導入 小H27～H28 中H29～H30
- ◆全小中学校へのデジタル教科書導入 小H27～ 中H29～
- ◆タブレット(グループ学習用)の導入 H33～
- ◆タブレット(学習指導用)の導入 H32～
- ◆無線LANの整備 H30～
- ◆PC教室のタブレットPC導入 H31～
- ◆学校間グループウェアのクラウド運用 H33～





平成30年度 子ども・子育て支援事業

～みんなで応援！安心子育て すこやか子育て～

認可保育施設の開園・整備

予算額2億5,000万円

【目的】 保育施設の定員を増やし、待機児童を解消する。

【事業内容】

- 子ども・子育て支援事業計画に基づき、教育・保育施設を整備し、保育定員の拡大を図る。

【整備施設】

- MOE 保育園てんじん園の認可化

《平成30年4月認可：定員60人》 予算額 8,900万円 保育所運営費

- 袋井駅南地区認可保育所（社会福祉法人三宝会）の新設支援

《平成31年4月開園予定：定員120人》 予算額 1億6,100万円 造成費、建設費の補助等

- （仮称）袋井南認定こども園整備事業

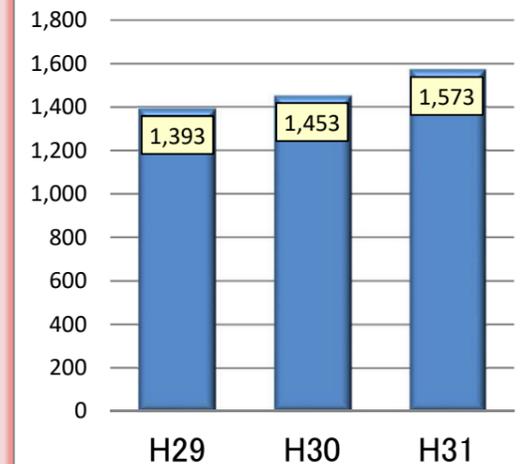
《平成34年4月開園予定：定員280人予定》 建設場所選定、用地交渉

子育てするなら
“ふくろい”で！



MOE保育園てんじん園

認可保育施設定員数



放課後児童クラブの拡充

予算額1億2,100万円

【目的】 平成31年度から全小学校区において、入所を希望する6年生までを対象に受け入れることができるよう、計画的に施設整備を進め、放課後児童クラブの定員を増やすことにより、受入体制を確保する。

【事業内容】

- 放課後児童クラブ専用施設の建設

袋井東小学校区施設整備《定員 50人》 予算額 4,250万円

袋井西小学校区施設整備《定員100人》 予算額 7,700万円

- 長期休業期間の受入施設の確保

山名小学校区用に山梨幼稚園を改修 予算額 150万円

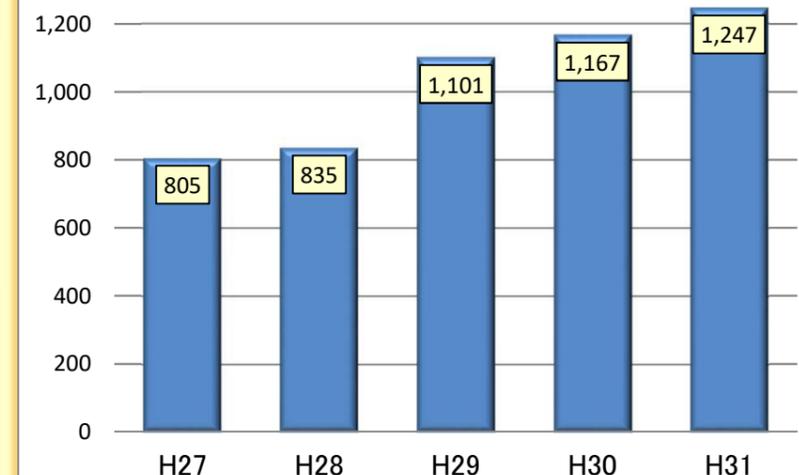
【その他】

- 袋井南小、袋井北小、三川小、笠原小、高南小、浅羽南小の受入対象学年を5年生に引き上げる。
- 袋井北小学校区に「（仮称）のびのび南クラブ第2」を新設し、4つの支援単位に再編する。

袋井西小と同規模の山名小専用施設



放課後児童クラブ定員数 （子ども・子育て支援事業計画）



ラグビーワールドカップ2019を活かしたレガシー創出事業

予算額： 5,079 万円

2019年に向けた取り組み ~TRY FOR 2019~

2019年9月に開幕するラグビーワールドカップでは、昨年11月2日、エコパ会場として、日本代表戦を含む予選プール4試合が実施されることが決定しました。袋井市では、大会本番に向け、小学生へのラグビー普及や市民への大会機運醸成、さらには市民が外国語や外国文化に触れる機会の提供など、まちの国際化に取り組んできました。

本番前年となる平成30年度には、市役所芝生広場へのミニゴールポストを設置し、さらなる賑わいづくりに取り組むとともに、外国人との交流の促進に向けて、本番時のホームステイの受入システムの構築を目指します。また、市内のWi-Fi環境の整備など、エコパ観戦客の利便性の向上に取り組めます。

〈対戦カード〉

9/28 日本VSアイルランド 10/4 南アフリカVSイタリア
10/9 スコットランドVS欧州1位 10/11 オーストラリアVSジョージア

新：新規事業 拡：拡充事業

	H30年度(2018年)												2019年					開催後のレガシー
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	
静岡県及び 県推進委員会の取り組み(案)													ラグビーワールドカップ2019 (9/20~11/2) ・100日前イベント ・県ラグビーフェスティバル ・テストマッチ					・2020 東京オリ・パラ
スポーツの振興 ・健康増進 ・大会機運の醸成 ・ひとづくり 1,380 万円	新 体験用ゴールポスト設置事業 270 万円 (市役所芝生広場にミニポスト/1基の設置、イベントの開催、パブリックビューイングの開催 など)													スポーツ人口の増加 ラグビー広場の運営 				
	ラグビー普及啓発事業 143 万円 (タグラグビー教室、トップリーグ観戦奨励事業など)																	
	開催地間交流事業 36 万円 (釜石市/スタジアムこけら落とし事業への出展)																	
	拡 大会の機運醸成事業(袋井市推進委員会 委託事業) 431 万円 (市民の機運醸成事業、愛野駅周辺の装飾、応援ゾーンの設置準備など)																	
	大会の機運醸成事業(静岡県推進委員会 負担金) 500 万円 (静岡県推進委員会への負担金/2019人バスリレー等、機運醸成事業等に活用)																	
国際理解・国際交流の推進 1,330 万円	拡 ふくろい版ホームステイ推進事業 680 万円 (ホームステイのトライアル、受入システムの構築、ハローフレンドの募集 など)												ホストファミリーの決定・実施 → ホームステイの受入					
	子ども達の英語力の向上事業 212 万円 (イングリッシュデイキャンプ、英検チャレンジ)												中学生:期間中のボランティア協力 → 国際感覚を持った人材の育成					
	グローバルコミュニケーション力向上事業 140 万円 (成人向け/英語講座の開設)												→ 小中学生の英語力向上					
	新 市内小中学校「エコパ対戦国応援事業」 48 万円 (市内小中学校におけるエコパ対戦国の文化や歴史などを学ぶ国際交流学習の支援)												→					
	新 海外メディア等への情報発信事業 250 万円 (ラグビーワールドカップに向けたメディアツアーやリリースの配信など)												→					
まちの快適空間の創出 2,369 万円	拡 Wi-Fi環境整備事業 335 万円 (市内公共施設、民間観光施設、商店等への導入促進、識別名称/SSIDの統一 など)												→ 愛野駅周辺の賑わい創出					
	まちの多言語案内表示看板整備事業 630 万円 (市内道路案内標識/交差点名標識の2か国語:日本語及び英語での表記)																	
	新 おもてなし観光推進事業 350 万円 (市内観光施設の案内パンフの英語版の作成、観光タクシーの試行支援)																	
	拡 彫刻のあるまちづくり事業 366 万円 (愛野駅前メモリアルロードの彫刻修繕)																	
	拡 花いっぱい2961でおもてなし事業 688 万円 (袋井駅・愛野駅前及びメモリアルロードへの花の植栽や樹へのチップ散布など)																	

実現

ラグビー精神を活かしたひとづくり
 まちのエネルギーの情報発信 国内外からの誘客の促進
 国際感覚を持った人材の育成 豊かな市民生活の実現
 東京オリ・パラへと続く市民のスポーツ活動の活性化

袋井市総合体育館整備及び運営事業

PFI事業者「袋井アリーナPFI株式会社(袋井市久能 1724-1)」 事業費:約61億4千万円(設計・建設費:約45億2千万円、維持管理・運営費(15年分):約16億2千万円)

予算額:17億4,562万円

PFI事業サービス購入料・委託料ほか 16億3,212万円

周辺道路整備工事費 1億1,350万円



平成30年4月
本体建設工事開始

平成31年
12月1日
プレオープン!

平成32年4月1日供用開始

ウォーキングコース

外周のウォーキングコースで健康ウォーク!マンホールトイレや防災倉庫を設置し、1,500人収容可能な避難所としての役割も!

【屋外施設】

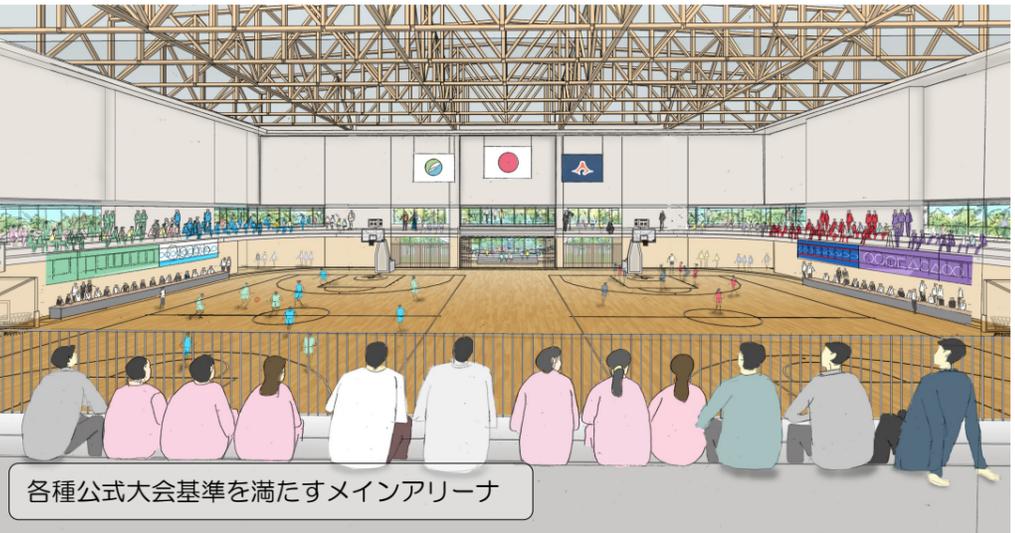
- ・子ども広場(木製屋根付き円環遊具設置)
- ・ウォーキングコース(1周約800m)
- ・駐車場(約450台) ・駐輪場(300台)
- ・耐震性貯水槽(100t)
- ・マンホールトイレ18基



大型遊具を備えた子ども広場や併設のカフェで憩いの空間

【スケジュール】

2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(平成31)年度	2020(平成32)年度~
基本・実施設計 (H29.3~H30.3)	建設工事 (H30.4~H31.9)	開業準備 (H31.10~11)	★プレオープン期間 (H31.12~H32.3)
設計・建設モニタリング	市民・スポーツ団体・運営事業者などによる意見交換		★H32.4.1 供用開始
ネーミングライツ	パートナー募集 選考 決定		
	金融機関との直接協定締結		
	維持管理・運営モニタリング		
周辺道路設計・道路整備			



各種公式大会基準を満たすメインアリーナ



外景を眺めながら運動できるトレーニング室



公式競技も開催できる武道場兼多目的フロア

【施設概要】

- ・メインアリーナ(バスケットボールコート2面) 観客席(固定席約500席、移動席約540席) 屋内ジョギングコース(約180m)
- ・サブアリーナ(バスケットボールコート1面)
- ・武道場兼多目的フロア(剣道場・柔道場 各1面)
- ・トレーニング室
- ・多目的室
- ・会議室
- ・キッズルーム(大型遊具設置)
- ・ベビールーム(授乳室)
- ・健康・体力相談室
- ・談話室
- ・管理事務室、スポーツ協会事務室

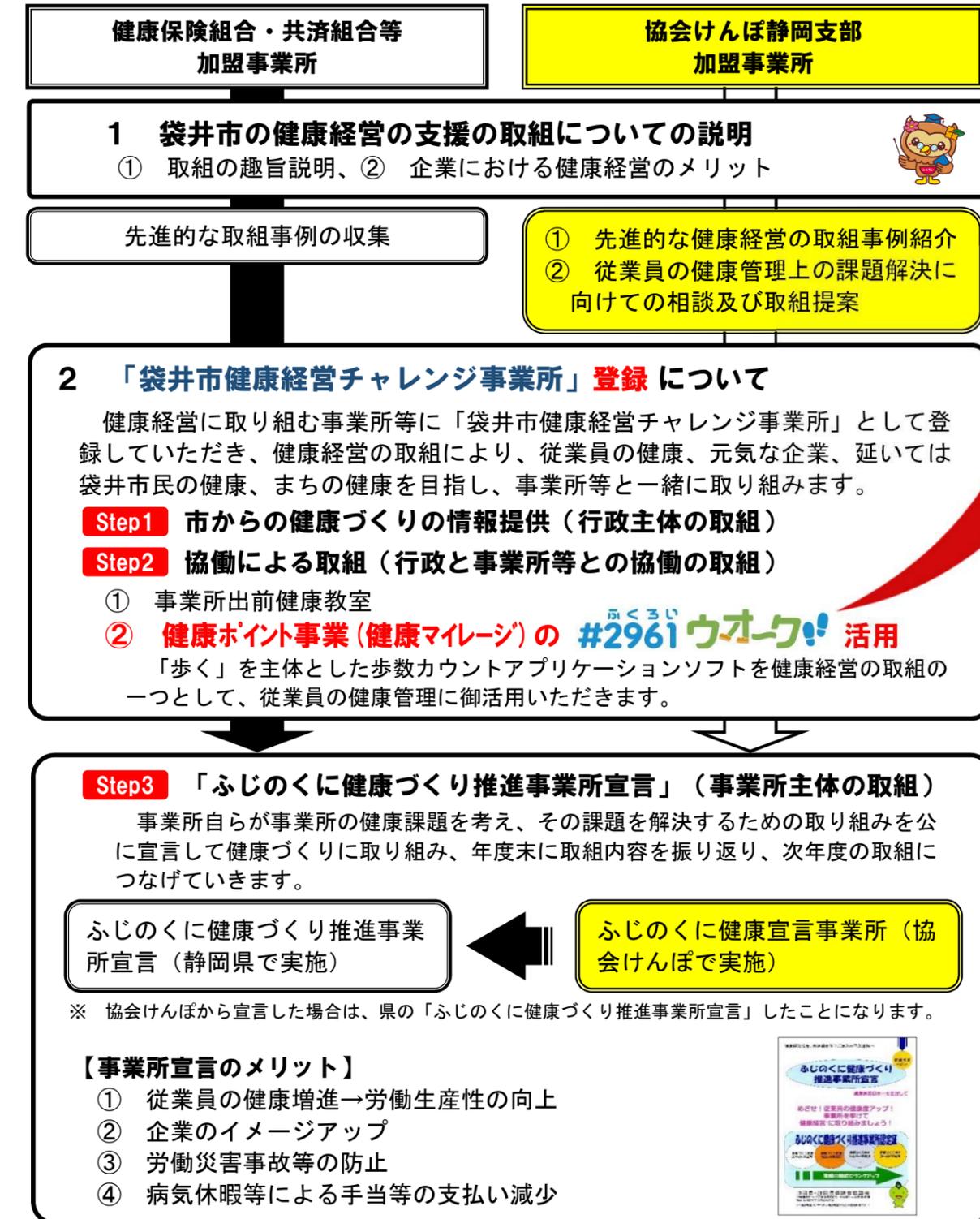
市の公共施設で初めてフットサルができるアリーナ! トレーニング室では、初心者から上級者、障がいを持った方も利用できるマシンを完備し、トレーニング履歴をクラウド管理します。

※施設概要やスケジュール等は、実施設計時のものであり、今後、建設の協議の中で、変更となる場合があります。

予算総額：530万円

健康経営の支援

積極的な企業・事業所訪問の実施より「袋井市健康経営チャレンジ事業所」に登録していただき、**行政と事業所等が一緒**になって、3段階（Step1～Step3）で**健康経営の取組**を実践！



Step2 協働による取組

新 ふくろい **#2961 ウォーク!**

新システム「**#2961 ウォーク!**」を企業・事業所の健康経営を推進するための手法の一つとして活用し、企業・事業所と協力して**働く世代を中心とした健康づくりを推進**し、本市の課題である**糖尿病予防**を推進します。

- 【#2961 ウォーク! の概要】**
- ① スマートフォンであれば歩数を自動カウント・自動送信**
スマートフォンであれば**歩数を自動カウント**、アプリ立ち上げで歩数が**自動転送**され、毎日の登録の手間が省けます。
 - ② スマートフォン以外のパソコンやガラケーでも参加可能**
スマートフォンだけでなく、パソコンやフィーチャー・フォン（ガラケー）からも参加（※歩数自動カウント機能がないため、歩数は手入力となります。）が可能です。
 - ③ 歩数のポイント化と目標達成等でボーナスポイント付与**
新システムは誰でも活用できますが、ポイント付与対象者は市内在住・在勤者のみです。誰もが取り組み易い「歩く」を主として、**歩数をポイント化**し、引き続き、自らが設定した**目標の達成によるポイント付与**や**特定の条件等を満たした場合にポイントを付与**します。貯まったポイントは、市内公共施設や飲食店などのクーポン券等との交換や学校、幼稚園などに寄附できます。



★ウォーキングポイント 2,961歩 = 1 P（1日最大3 P：概ね9,000歩）

★付与ポイント 運動・食事の両目標達成で1 P、体重入力で1 P

※ ウォーキングポイントと付与ポイントを合わせれば、1日最大5 P獲得!

- ④ データ管理・ヘルスマネジメントで自分の健康をチェック**
歩数情報を基に消費カロリーや歩行距離などを自動算出します。また、毎日の体重入力や検診結果入力などで、自分の**取り組み状況や結果が確認**できます。
- ⑤ ポイント交換手続きをWeb上で完結**
ポイントの蓄積・交換からクーポン券等の発行や利用までの行程を**全てWeb上で完結**でき、ポイント交換から交換したクーポン券等の利用などが簡単にできます。
- ⑥ グループ登録でグループ内競争が可能、従業員の健康管理に活用可能**
グループ登録は、お友達、事業所等など複数のグループに登録が可能です。グループの管理者は、グループメンバーの歩数を実名で確認でき、事業所等で人事管理担当部署職員等が管理者となって**グループ登録**すれば、**事業所等内での競争も可能**で、**従業員の健康管理にも活用**できます。
- ⑦ ウォーキングを継続するアイテムを搭載**
歩数のポイント化等に加え、その日歩いた歩数等によりサイコロを振って、日本一周を疑似体験する**すごろくゲーム**やウォーキング中に見つけた市内の**素敵な風景**などを撮影した**写真やコメントを投稿**できるなど、楽しくウォーキングを続けられる機能を搭載しています。



【「健康経営の支援」の取組による取組指標】

No.	項目	取組指標		
		平成30年度	平成33年度	
1	「袋井市健康チャレンジ事業所」登録数 ※302事業所(20人以上の事業所数)	80事業所	200事業所	
2	「#2961ウォーク」登録者数 ※764人(「e-すまいる」登録者数(H29年4月現在))	3,000人	5,000人	
3	「ふじのくに健康づくり推進事業所宣言」事業所数 ※7事業所(H29年12月現在)	20事業所	50事業所	
4	日常的な運動習慣のある人の割合 (袋井市健康づくり計画の指標より)	20歳～64歳 男性	30.0% (H26)	36.0% (H34)
		20歳～64歳 女性	18.4% (H26)	33.0% (H34)



コミュニティセンターを拠点とした地域づくり

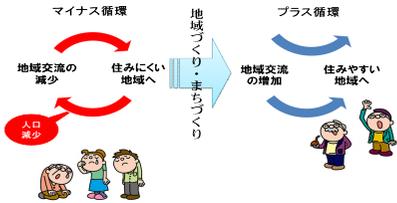
～ 市民一人ひとりがいきいきと暮らす魅力ある地域であり続けるために ～

予算額 ○館長、センター職員及び管理人人件費 1億1,710万円
 ○コミュニティセンター等管理運営費 1億2,940万円
 (コミュニティセンター14館、コミュニティ広場・多目的広場)

1 背景

- (1) 人口減少社会の到来
- (2) 高齢社会の進展
- (3) 市民が求めるニーズや地域課題の多様化

【活動拠点】平成30年度から市内すべての「公民館(生涯学習の拠点)」を「コミュニティセンター(地域づくり・まちづくりの拠点)」へ移行
【組織体制】市内すべての地区に地域住民が主体となった活動組織として「まちづくり協議会」を設立



コミュニティセンターになると・・・

- ◇子どもから高齢者まで広く市民が利用しやすい施設となる。
- ◇これまでの公民館の活動に加え、収益事業が可能となるなど活動の自由度が広がる。住民やNPO、各種団体など多様な担い手がより自由に、柔軟に活動でき、特色ある地域づくりが活性化していく。
- ◇これまでは各地域で職員を雇用していたが、市が直接任用する職員を配置することで、地域の負担の軽減を図るとともに、市と地域の連携・調整がスムーズになる。(例)地域から市へ提出する書類等の受付窓口や身近な行政の相談窓口となる。

「イベント開催」中心の地域づくり → 「サービス提供型」を含む地域づくりへの進化を目指す

2 特色ある地域づくりへの支援(交付金制度の創設) 23,400千円(うち上乗せ分10,000千円)

まちづくり協議会が地域の実情にあわせ、きめ細やかな地域づくりを推進するために地域が考え取り組む活動の実施に対し、「特色ある地域づくり交付金」を創設し、活動の支援を行う。

- 効果1 特定の事業に対する支援ではなく、個別補助金から一括交付金とすることで地域の主体性により重要度、優先度が高い活動により柔軟に必要な資金を充てることができる。
- 効果2 一括交付することにより各組織(部会など)の連携を図ることができ、継続的な活動実施につながる。
- 効果3 活動ごとに交付申請、報告書の作成が必要であったが、書類の一本化、コミュニティセンター事務局の作成支援により地域の事務軽減につながる。

★ 特色ある地域づくり交付金に一本化 ★

既に実施している活動分	自治会連合会交付金(コミュニティ推進及び地域課題解決活動交付金)	自治会連合会内のコミュニティ推進及び地域課題解決活動を実施する自治会連合会に対する支援
	地区安全会議活動交付金(防犯推進協会)	自主防犯活動(青色回転灯防犯パトロールの実施や、防犯啓発活動など)を実施する地区安全会議に対する支援
	協働まちづくり事業補助金(地域事業分)	自治会などの地縁団体が、自らの地域のために行う公益上必要があると認められる事業を支援するための補助金
	特色ある公民館づくり事業費補助金	公民館が、地域の再発見と新しい地域文化の創造を図り、独自の事業(活動)を支援するための補助金
	ウォーキングキャラバン事業委託料	公民館毎に行われているウォーキングキャラバン事業の委託料
新たに取組む活動分	高齢者、子育て支援、健康づくり事業(いきいき力)	(高齢者支援)居場所づくり、見守り、高齢者世帯への宅食サービス、介護予防教室 (子育て支援)子育て相談、放課後子ども教室、学習支援 (健康づくり)健康教室(講座)、体育祭ほか各種スポーツ大会(交流会) など
	地域防災力向上事業(防災力)	自助(家具固定、耐震対策、非常用品の備蓄)の推進、防災講座 など
	交流・にぎわいづくり事業(にぎわい力)	地域交流まつり、異世代交流事業、歴史文化伝承活動 など

効果・目標

◎高齢者支援

- いきがいを持って元気に暮らせる高齢者の増加
- 国民健康保険税の上昇の抑制

◎子育て支援

- 地域で子どもたちを育て・見守ることから、郷土に誇りを持ち故郷が好きな子どもが増える。

◎健康づくり

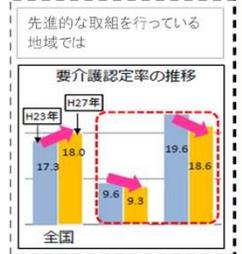
- 元気な市民の増加
- 医療費の抑制

◎地域防災力向上

- 災害による被害の軽減

◎交流・にぎわいづくり

- 隣、近所の助け合い
- 住みやすく魅力ある地域の形成



3 平成30年4月以降の取組





まちの国際化「ふくろいまるごとインターナショナル」の推進

予算額
1億400万円
【一部再掲あり】

多くの外国人が訪れるラグビーワールドカップが、身近なエコパスタジアムで開催されることは、市民が世界に目を向け、関心が高まる絶好の機会。

異文化への理解

コミュニケーション力の向上

日本・袋井の魅力再確認

まちの国際化の推進

- ・外国人が訪れたい魅力的なまちづくり
- ・市民と定住外国人が暮らしやすく多様性を生かした活力ある地域づくり
- ・複雑化する国際社会や経済産業のグローバル化に対応できる人づくり



取組1 国際感覚の育成(異文化理解)

1,500万円

【拡】ふくろい版ホームステイ推進事業

2019年の「ふくろい版ホームステイ」実施に向け、トライアル事業を重ねることで、ホストファミリーの確保につなげていく。また、2019年ゲスト募集サイトの構築、開設、さらには実際の申し込みを開始する。

ハローフレンドの募集

ハローフレンドの募集を積極的にPRし登録世帯数を伸ばしていくことで、各種交流事業やホームステイへの参加者の増加につなげる。

【拡】国際交流員出前講座

CIR(国際交流員)がコミュニティセンターや放課後児童クラブ、その他各種団体で母国の紹介や英語コミュニケーションなどの異文化交流を行う。

【拡】市民と在住外国人との交流事業

異文化への理解を深めるとともに、国際交流の楽しさを実感してもらうため、日本人と在住外国人とが、短い時間で気軽に交流できる機会(異文化カフェなど)を、CIRが企画運営する。

幼稚園保育園訪問「ハローイングリッシュ」

幼児期から外国人や海外の文化に親しむため、CIRが5歳となる園児を対象とした異文化交流教室を行う。

国際交流に関する情報発信

ハローフレンドに各種イベントや海外の文化などを定期的に情報発信するほか、CIRの活動状況やCIRが日本に来て感じたことをホームページ、Instagram等で発信する。



取組2 コミュニケーション力の向上

4,600万円

【拡】英語教育の推進

H30年度からの新学習指導要領先行実施に対応するため、ALTを3人増員(計11人)し、小学校外国語活動の授業すべて(3・4年生:35時間/年、5・6年生:70時間/年)にALTを配置する。

楽しい体験 英会話教室

ALTやCIRにより、異文化への理解や身近な英会話を習得するほか、インターネット電話を活用した国際交流を展開する。

英検チャレンジ事業

英語力を養い、目標をもって意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒を応援するため、参加費1,000円で英検にチャレンジできる機会を設ける。

イングリッシュ・デイキャンプ

英語でコミュニケーションする楽しさを体験させ、積極性や学習意欲の向上に繋げる。小3・4、小5・6、中学生の3コースに分け、夏休みに実施する。

ランチタイムイングリッシュ

英語を学ぶ機運を高めるとともに、簡単なフレーズを身につけられるよう、CIRにより、文化の違いやワンポイント英会話を、昼休みに本庁舎内で放送するとともに、YouTubeにて配信する。

職員向け英会話教室

英語を学ぶ機運を高めるため、職員が自ら英会話を学び、外国人とのコミュニケーションができるよう、CIRが講師となって英会話教室を開催する。



取組3 まちの環境整備

1,000万円

案内看板の多言語化の推進

公共サイン整備計画に基づき、6か所の交差点名標識を2か国語表示(日本語・英語)へ更新する。

【拡】Wi-Fi環境の整備

市内の観光拠点施設や各事業所へWi-Fiスポット設置を普及するため、オープンストリートマップを利用したWi-Fiポータルサイトを構築し、Wi-Fiスポットの位置及び観光情報、店舗情報を8言語で紹介する。(Wi-Fiスポット設置目標:H30~H31年度で市内100か所)

多言語翻訳サービスの推進

健康相談など外出先での業務や、観光案内所窓口での情報提供時に、タブレットを用いた音声翻訳やテレビ電話を活用する。

取組4 多文化共生の推進

2,200万円

外国人児童生徒サポート事業

日本語指導だけでなく、支援を必要とする外国人児童生徒への支援及び、外国人児童生徒の保護者の教育相談等に対応する。

【新】(仮称)多文化共生推進計画の策定

多文化共生社会の実現を目指すため、(仮称)多文化共生推進計画を策定し、現状の課題整理及び具体的な施策等を明確化する。

取組5 まちの魅力発信

1,100万円

【拡】まちのブランド力向上事業

海外メディアの取材誘導のため、特派員を対象としたモニターツアーやプレスイベントを実施する。

【拡】インバウンド観光の推進

ベトナムの現地旅行会社を訪問し、インバウンド誘客を図るほか、観光パンフレットの英語版の作成、クラウンメロン振興協議会によるクラウンメロンタクシー導入に伴うツアーの企画・運営等への支援を行う。

【新】健康都市連合国際大会への参加

日本一健康文化都市の実現に向けた取組を、10月にマレーシアで開催される健康都市連合国際大会の場で発表し、国内外に広くPRするとともに、世界各国の先進事例を取り入れ、まちづくりに活かす。

【新】ふくろい特産品販路拡大事業

主要都市での商談会に出展することで、国内はもとより、東アジア等への販路拡大を目指す。

袋井駅南まちづくり事業

予算額：3億6,900万円

【一部再掲あり】

【背景・目的】

～にぎわいと潤いのある健康的な都市空間の創出～

『にぎわいと潤いのある健康的な都市空間の創出』を目指し袋井市の顔となる玄関口袋井駅南地区にふさわしい「にぎわい」の充実を図るとともに、「潤い」のある良好な住環境の形成”・”生涯にわたる「健康生活」と、歩いて楽しいコンパクトシティ”に向けた整備を進める。



市の中心核に位置付け（H20.3月 都市計画マスタープラン）

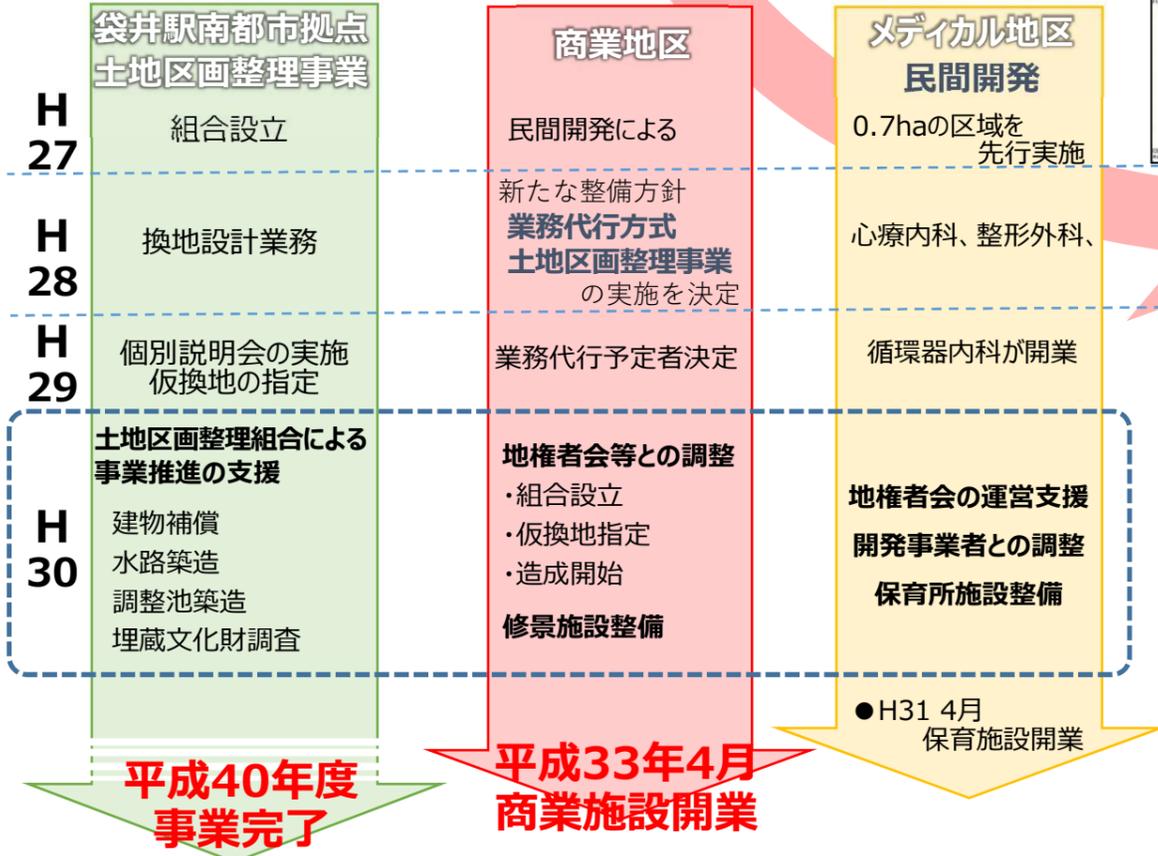
袋井駅周辺から市役所周辺に広がる市街地は、文化、商業、業務機能を中心とした、商業購買力や観光交流客が集散し、回遊する多様な都市機能の集積を図り、市の顔となる中心核として位置づける。

WSによる駅南田端地区整備計画の策定（H20.5月）

地域住民が主体となり、「住民に優しく魅力あるまちづくり」を基本目標に掲げ、整備計画を策定するとともに、区域割りの検討を行った。

袋井駅南地区まちづくり計画の策定（H26.5月）

WSにおける検討結果や都市計画マスタープランでの基本方針に基づき、袋井駅から商業地区まで一体性のある土地利用事業の推進を図り、市の顔としてにぎわいと潤いのあるまちづくりを推進する。



◇事業の概要

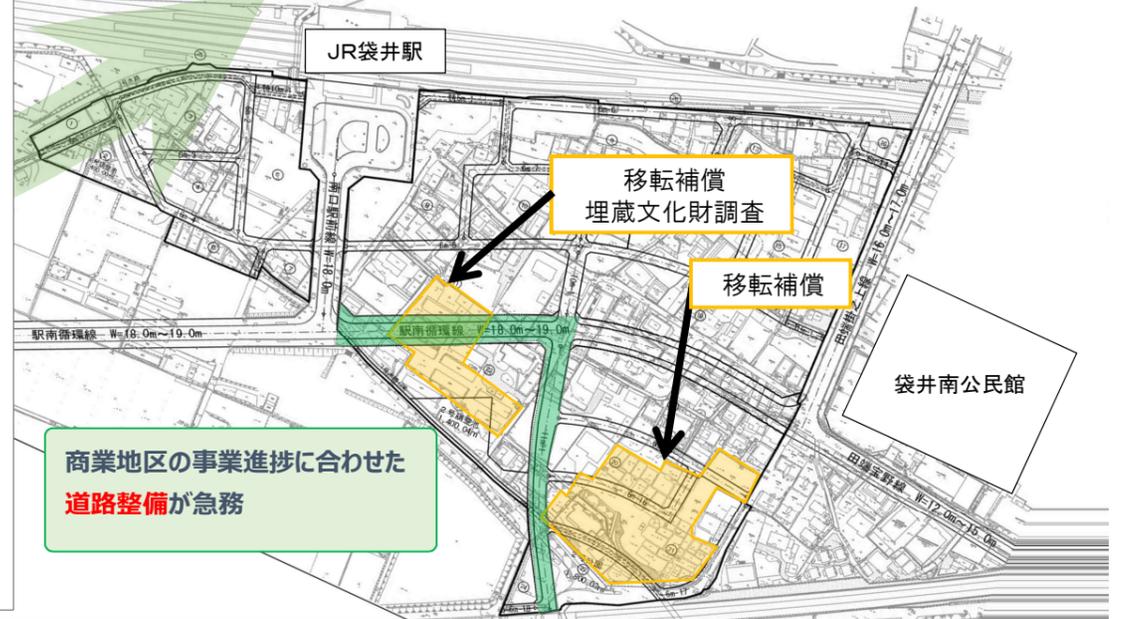
施行面積 A = 8.7ha
 施行期間 平成27年度
 ～平成40年度
 総事業費 57億6,000万円
 道路築造延長 2,584m
 水路・調整池 3,076㎡
 公園整備 2,800㎡

◇進捗状況（区画整理組合予算）

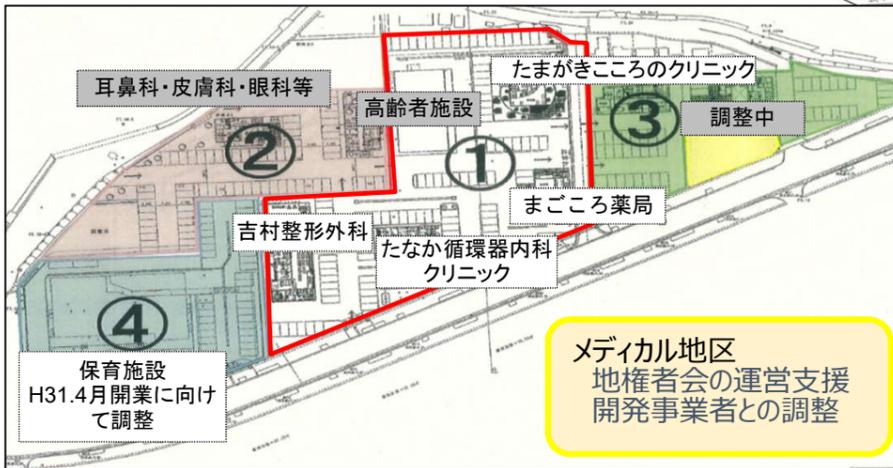
H27実績 4,850万円
 （進捗率 0.8%）
 H28実績 1億1,600万円
 （進捗率 2.9%）
 H29予算 1億2,440万円
 （進捗率 5.0%）
 H30予算 3億3,020千円
 （進捗率 10.8%）

袋井駅南都市拠点土地区画整理事業

土地区画整理組合による事業推進を支援

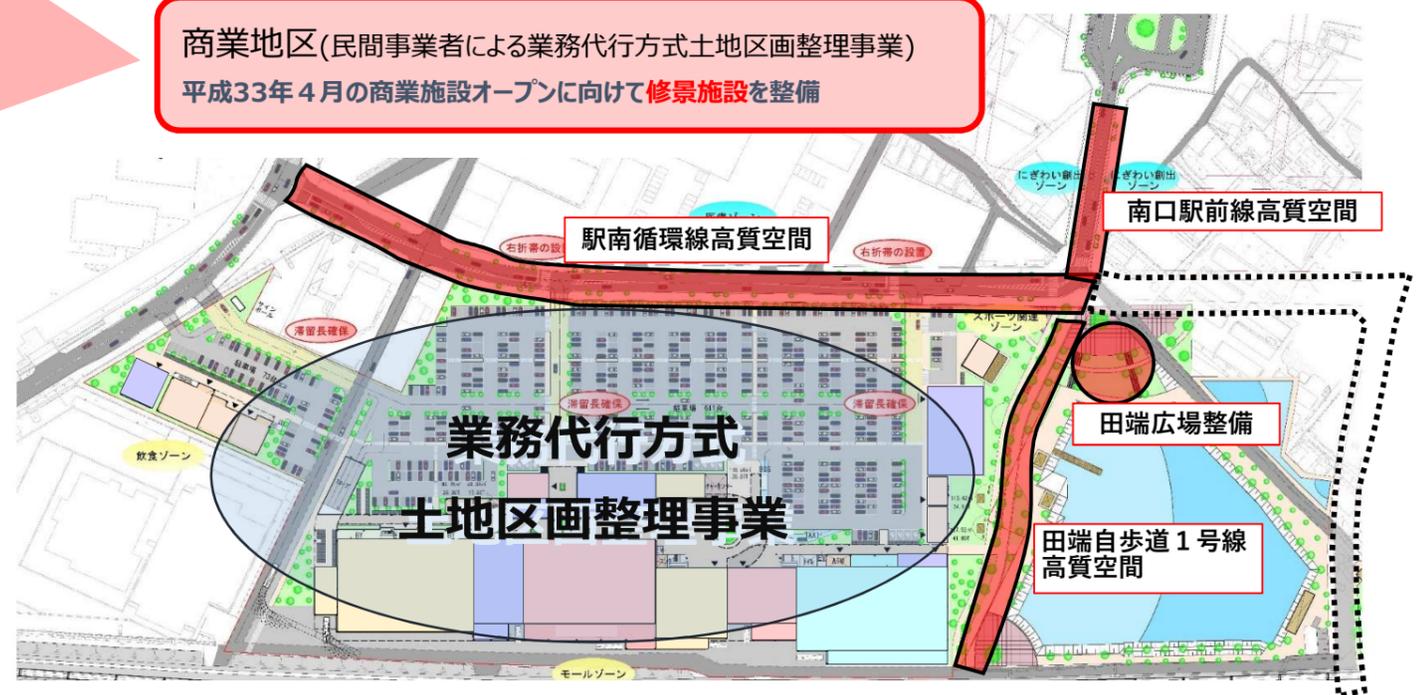


商業地区の事業進捗に合わせた
道路整備が急務



事業内容	H30年度 事業費
袋井駅南都市拠点土地区画整理組合 補助金・負担金	1億9,900万円
袋井駅南地区認可保育所 施設整備費補助金等	1億6,100万円
田端広場ほか3路線測量設計	900万円
計	3億6,900万円

商業地区(民間事業者による業務代行方式土地区画整理事業)
平成33年4月の商業施設オープンに向けて修景施設を整備



H30 空き家対策事業

予算額：30万円

背景

近年、適切に管理されていない空家等が増加し、防災面や景観面などにおいて、周辺の生活環境に悪影響を及ぼしていることが、全国的に課題となっている。このような状況を受け、国では、平成26年11月に「空家等対策の推進に関する特別措置法」を公布するとともに、同法第6条において、「市町村は、その区域内で空家等に関する対策を総合的かつ計画的に実施するため、基本指針に即して、空家等に関する対策についての計画を定めることができる。」と定めた。このため、本市では、市独自の方針や施策等を定めるとともに、本市における空家等対策の推進及び利活用の促進を図り、安全で安心なまちづくりの推進に寄与することを目的として、「袋井市空家等対策計画」の策定に取り組んでいる。

袋井市の状況

平成28年度空家等実態調査

空家総数	管理○	管理△	管理×
766	581	141	44

○：管理良好 △：管理不良（草が繁茂等） ×：危険（傾き等）

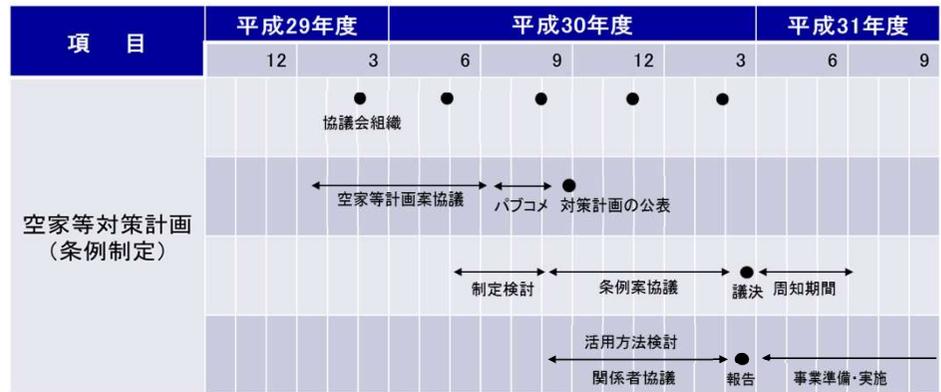
目標

空き家の増加に伴う地区・地域の魅力低下や治安悪化等の発生を未然に防ぎ、空き家を地域資源に変える取り組みを定める「袋井市空家等対策計画」を策定する。（平成30年度末）

空家等対策計画に定める内容

- 1 基本的な方針
- 2 計画期間
- 3 空家等の調査
- 4 適切な管理の推進
- 5 空家及び空地等の跡地の活用の促進
- 6 特定空家等に対する措置その他の対処
- 7 住民等からの空き家等に関する相談への対応
- 8 空家等に関する対策の実施体制
- 9 その他空家等に関する対策の実施に関し必要な事項

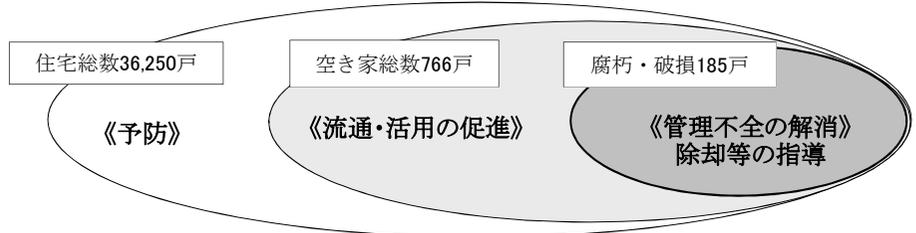
工程表



平成30年度の取り組み

- ◎計画立案（報償費：20万円）
協議会開催、計画策定、条例制定（必要に応じて）
- ◎空き家対策（手数料：10万円）
 - 【予防】
 - ・市民や建物所有者等への啓発
 - 【流通・利活用の促進】
 - ・相談体制の強化
 - ・官民協議会の設立
 - ・空き家バンク制度の創設
 - ・空き家所有者等の意向調査と実態把握
 - 【管理不全の解消】
 - ・特定空き家等と判断するための基準作成

空き家対策のイメージ



ICTを活かした街づくりの推進 ~より豊かに、より快適なまちの実現へ~

予算額 3,580万円

【一部再掲あり】

1 背景・目指すべき姿

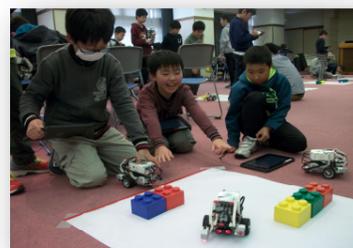
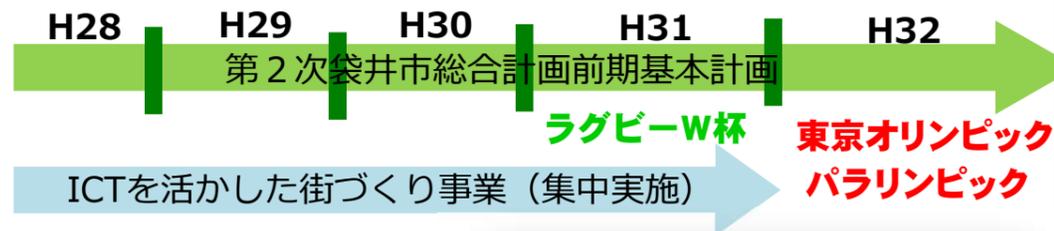
近年、スマートフォンやIoT機器の普及は、人々のライフスタイルに様々な変化をもたらすとともに、多様な分野の課題に対し、きめ細かく対応できるツールとして活用されています。本市では、ラグビーワールドカップに向けたWi-Fiスポットの整備や、市業務へのAIの導入、オープンデータの利活用など、「より豊かに、より快適なまち」の実現に向けて、ICTを活かした街づくりを推進します。

2 ICT推進計画(抜粋)

- ICTを活用した市民サービスの向上
・オープンデータ活用、フッピーVoiceなど
- ICTを活用した行政の効率化
・ペーパーレス会議システム導入、サーバの仮想化
- ICTインフラの整備
・Wi-Fi環境の整備
- ICTを活用できる人材の育成
・プログラミング教育、教育環境のICT化
- 情報セキュリティのさらなる強化
・庁内ネットワークの分離、二要素認証

3 スケジュール

袋井市総合計画 政策3 快適で魅力あるまちを目指します。
(H28~H32)取組6 生活を快適にするICT環境の構築



4 平成30年度の取り組み

取組1 市内Wi-Fiスポットの拡大 280万円

2019ラグビーワールドカップを契機に、市内の観光拠点施設、各事業所（飲食店、宿泊施設、小売店等）、公共施設のWi-Fiスポットを官民連携により整備し、永続的に外国人をもてなす本市のレガシーを構築する。

- 期間 H30.4~H31.9まで
- 設置目標 市内100ヶ所 (H30.2現在24ヶ所)



取組2 静岡理科大学とのIoT活用の調査研究 60万円

- ・給食に関わるオープンデータ（献立、残食量、カロリー等）による嗜好分析、残食実態分析 → 残さずおいしく食べれる給食
- ・市HPへのAI導入実験 → 検索しやすいHPをAIが手助け



取組3 マイナンバーカードの魅力向上

児童手当や母子保健などの子育てに関する諸手続きの電子申請に加え、幼稚園・保育園サービスの諸手続きについてもマイナポータル上での開始を検討。

取組4 働き方改革を見据えたICT環境整備 3,000万円

時間や場所にとらわれないオフィス環境の整備のため、正規職員用PCのタブレット化 (H30完全配備予定)

農産物の販路拡大に向けた農業者主体の取組支援

【予算総額：180万円】

目的

- ① クラウンメロン・茶・米・イチゴなどの本市産農産物の新規販路開拓（国内外を問わず輸出も視野に）
- ② 袋井産農産物のブランド力向上
- ③ クラウンメロンをまちのアイコンとして定着させる。（あのクラウンメロンがある袋井市。クラウンメロン=袋井市）

経過

- 平成26・27年度：ロシア向け袋井茶輸出事業、台湾へのメロン輸出
- 平成28年度：タイ・マレーシアへのメロン等のトップセールス、ドバイへのメロン輸出
- 平成29年度：
香港大手食品総合商社が発売した「クラウンメロンケーキ」のPRイベントをトップセールスにより実施、同時に各作物の若手生産者が農産物輸出について研修する「東アジア農産物輸出促進視察研修事業」を実施



クラウンメロン

- ・マスクメロンの頂点で農林水産大臣賞の常連
- ・国内外の評価上昇中

生産者数は減少しているものの、販売単価は上昇傾向。海外などの新たな販路拡大や加工品の推進等の取組みと並行して、後継者確保が課題となっている。



お茶

- ・市内生産者が全国茶品評会で農林水産大臣賞を受賞（H25・H27）、産地賞入賞3年連続入賞
- ・ブランド茶「きら香」

若手生産者による輸出への取組みも行われ、海外検疫条件や農薬基準への理解を深めている。



イチゴ

- ・市内農業者のイチゴが県品評会で農林水産大臣賞を受賞（H27）

市内農業者と農林技術研究所が長期保存技術を開発中。海外輸送の検証や新たな販路開拓を目指す。

その他市内で栽培されている農産物

ブランド米「ふくほまれ」が全国コンテストで金賞受賞（H27）

乳牛・肉牛・豚肉

高糖度トマト・パクチー

レタス・白ネギ など

★1 クラウンメロンのPR・販路拡大

【予算額：50万円（クラウンメロン振興協へ補助金）】

①クラウンメロンタクシー事業

- 一目でクラウンメロンと分かるようなデコレーションを施したタクシーを整備
 - ・市内タクシー会社とのコラボレーション
- まちのアイコン、動く看板としての効果を狙う
 - ・「袋井市=クラウンメロン」のイメージ定着
- クラウンメロンタクシーを使った市内の観光ツアーを企画
 - ・タクシーならではのフットワークの軽さを活かし、市内の小規模な見所を観光資源として活用可能にする。
- クラウンメロンタクシーのウェブサイトの作成
 - ・ツアーの周知と募集、ツアーの立ち寄り先となる事業者やイベント等の募集



②航空会社と連携した農産物のPR

- 平成28～30年度の継続事業として、国際空港のラウンジ等において、クラウンメロンをはじめとする本市産農産物を提供する。

★2 都内日本茶専門店でのふくろい茶の販売・PR

【予算額：50万円（袋井茶振興協へ補助金）】

- 「棚貸し」形式での委託販売が可能な東京 日本橋の日本茶専門店にて、年間を通じて市内茶生産者等のお茶を販売委託（対面販売形式）
 - ・本市のみで生産される白葉茶「きら香」等（2品）を販売し、ふくろい茶のブランド力向上を狙う
- 国内外の来客者に対し、生産者等（出品者）による店舗での販売イベントを行い、個人の“販売力アップ”を図る。
 - ・期間ごと出品者が自己商品を説明・販売
- フレーバーティーの製造・販売
 - ・多様化する消費者ニーズに合わせ、特産のメロンを使ったフレーバーティーを製造
- きら香・出品者紹介パンフレットを作成（英語版）
 - ・ふくろい茶に興味を持ってもらい、直販につなげられるようパンフレットを作成



★3 生産者団体が自ら企画する販路拡大事業への支援

【予算額：80万円（農業振興会へ委託）】

- 農業振興会の各部会などの農業者団体が、自ら企画して販路拡大のための取組を行う事業（国内外への出展など）に対し、農業振興会が支援。市から農業振興会に対し委託します。

【特産物販路拡大事業委託金】

- アグリフードEXPO
大商談会で広域的な販路拡大へつなげる。大阪（2月）
- 沖縄大貿易会
国際物流ハブのネットワークを活用し、静岡空港から那覇空港を経由した輸出も含めた販路拡大につなげる。沖縄（11月）
- 各種海外商談会等
国外商談会へ出展し袋井農産物の輸出促進に取り組む。



生産者の販路拡大による販売収益の増

次の時代を見据えた政策研究

予算額200万円
(政策研究費のうち)

袋井市産業経済懇話会[第1回・2回]の議論を踏まえ、
第1回 2030年の社会と技術の展望～AI・IoTが生み出す第4次産業革命と日本の未来～
第2回 ものづくり産業のイノベーション方策～地方だからできる新しい産業づくりへの取組～

① 中小企業・農業の未来投資促進

《課題等》

■ 中小企業・農業の課題と方向性

- ・ 人材不足⇒確保策に限界も⇒自動化・AI導入
- ・ 利益率向上⇒間接コストを低減⇒IT積極活用
- ・ 産業新潮流⇒第4次産業革命⇒スマート工場・農業

【中小企業等の意識】 IoTはわかりにくい ⇒ 投資費用がかかる
【中小こそ大きな効果あり】 中小企業の事例が増えた! ⇒ 10万円からのIoTの時代!

《研究事項》

本地域の中小企業・農業の持続的発展のため、スピード感を持ってIT(クラウド・AI・IoT)導入を推進する必要があり研修会開催や促進に向けた研究を行う。



② 次世代型産業の育成

世界的なEV化の流れ・自動運転技術の普及など、大きな産業転換が起ころうとしている中、本地域の主要産業でもある輸送用機器産業を中心に新潮流を見据えた地域での取組が急務である。



《研究事項》

エコパ周辺において超小型モビリティ等の自動運転技術を用いた社会実験など、県や民間企業、理工科大学等と連携し次世代産業創出に向けた研究を行う。

③ 袋井駅北のまちづくり再興の方向性



駅南に高質な新商業地誕生



《研究事項》

駅南地区に新市街地が誕生する今、駅北側の活性化にけてまちづくりを考える

例えば…

- ① 商業エリアとして空き店舗のリノベーション積極促進
- ② 高度利用による居住環境へのシフト
など今後の方向性を研究する。

④ “OTAGAISAMA”の活性化に向けて～市民がボランティア活動しやすい環境づくり～

《研究事項》 ボランティア等市民活動の現状を把握し、さらに活性化するための仕組みづくりを研究する

